

令和6年度 第2回子ども・子育て会議 会議録

- 日 時 令和6年11月11日（月）10：00～11：15
- 会 場 沼田市役所 防災会議室 401
- 出席委員 井上委員（会長）、上原委員、大岡委員、小尾委員、櫛渕委員、黒岩委員、郷津委員、小寺委員、中澤委員、久保委員（代理）、森田委員、山崎委員、吉田委員
- 欠席委員 塩野委員、和田委員
- 事務局 （子ども課）阿部課長、綿貫課長補佐兼子育て支援係長、小菅保育係長、入澤副主幹
- オブザーバー（健康課） 鶴淵課長、大嶋主幹兼保健係長
（学校教育課） 林課長
（計画策定委託業者）NPOぐんま 2名
- 傍 聴 なし
- 配付資料 ・事前配付資料 第3期沼田市子ども・子育て支援事業計画書素案
・当日配布資料 次第
委員名簿
策定スケジュール
事前質問
プレコンセプションケアリーフレット
こども家庭庁リーフレット（ヤングケアラー・相談LINE、189ダイヤル）

1 開 会

司会：阿部課長

2 あいさつ

会 長 今回の委員の任期は、令和7年10月31日までとなっている。少し長いが皆さんよろしく願いしたい。

今月は、児童虐待防止月間である。児童虐待は報道で承知のとおり、年々増えている。ぜひ興味をもってもらいたい。オレンジリボンをつけているのがその印になっている。

そして、昨日の新聞に子どもの不登校が増えているということが載っていた。私たちは、こども中心社会でいかなければいけない。群馬県全体で少子化が加速化している。そういう中で、私たちは子どもを育てていかなければならないということを踏まえて、ぜひ、本日はご審議にご協力をお願いしたい。

事務局 それでは、会議次第3の議事に移らせていただくが、以降の進行については、井上会長にお願いしたい。

3 議事

進行：井上委員

(1) 沼田市子ども・子育て支援事業計画の策定について

課長補佐兼子育て支援係長

前回の会議に欠席された委員さんもいらっしゃるため、子ども・子育て支援事業計画について再度ご説明してから、計画策定の業務委託業者である「NPOぐんま」から計画の概要について説明したい。その後、委員の皆様から、事前にいただいた質問票について回答し、今後のスケジュールまで進めさせていただきたい。

素案の1ページ目の計画の趣旨だが、教育・保育と地域の子育て支援について、実際の利用状況や利用希望を把握し、これを踏まえて事業量を見込み、確保すべき体制や機能とその実施時期を示すことで、地域の状況や利用者ニーズに応じた提供体制を確保するための計画になる。

計画の期間だが、令和7年度から令和11年度までの5年間である。

つぎに、素案の4ページ目の計画の位置づけについてだが、子ども・子育て支援事業計画は、図にあるように、沼田市のまちづくりの最上位計画である「沼田市第六次総合計画」の福祉部門の計画として位置づけられている。そして、子ども・子育て支援事業に関する事項を定めている、国や県、その他の関連計画との調和が保たれるように策定することになる。

第3期の計画を策定するための検討としては、昨年度に子育て世帯を対象としたニーズ調査を実施した。今年度は、計画書策定業務を「NPOぐんま」へ委託し、この子ども・子育て会議の委員の皆様のご意見を聴きながら策定を進めていきたい。

つぎに、素案の概要について「NPOぐんま」からご説明する。

NPOぐんま

素案の概要を説明。

※第3期子ども・子育て支援事業計画素案

課長補佐兼子育て支援係長

つづいて、委員の皆様から事前に質問票をいただいているため回答をしたい。

※事前質問回答のとおり

つぎに、今後のスケジュールについてご説明させていただく。本日お配りした「計画策定スケジュール」の表をご覧ください。本日、皆様からいただいた

ご意見を参考に修正し、年明けにパブリックコメントを実施する。その結果を反映した計画書最終案を２月頃に開催予定の子ども・子育て会議でお示ししたい。

会 長 説明の中で何かご質問があればお願いしたい。

委 員 素案の１２ページの人口の将来推計のところだが、第２期も同じように推計したと思うが、予想と実績の乖離はどうだったのか。

NPOぐんま 令和６年で年少人口を３，９９３人を見込んでいたが、４，４０１人で若干多かったが誤差の範囲であった。

委 員 貴社では、他の市もやっているのか。

NPOぐんま 当社は今回、沼田市さんだけであるが、今全国で一斉に計画づくりをしているところである。

委 員 今回、基本理念も基本方針も大きく変えないとなると、第２期の計画はまあまあ上手くいったと考えているのか。

子ども課長 ニーズ量と確保量は計画どおりに行えていると考えている。人口減少はだいぶ進んでいるということを踏まえて、今ある事業を継続、充実させていくということを第３期もやっていきたいと考えている。

委 員 量は確保できて当たり前だと思うが、量じゃないところに課題がある。子どもが減る中で何が課題で何をしようとしているのか見えてこない。

子ども課長 まずは、必要としている量を受けとめるだけの施策の充実は必要である。子どもが減ってきているので、事業規模の見直しや新しい事業への展開も考えていかなければいけない時がくる。沼田市の財源の中で、どれだけ子どもに使える予算があるのかということを市の中で検討していかなければならない。

委 員 子どもが減っていく中でも事業を継続していくのが第一ということはわかった。市民に聞いたニーズ調査なので、なるべく高かったニーズについて、この計画の中で触れなくてよいのか。

子ども課長 そういったニーズがあることは承知しているが、この子ども・子育て支援事業計画の中に盛り込むものではなくて、計画には国で示されている事業のニーズ量と確保の量を載せることになっている。それ以外の市が行っている事業について、第5章の施策の展開のところに載せている。ニーズ調査の結果でそういった市民のみなさんの要望があることは今後、研究していきたい。

委員 たとえば、子育てコンシェルジュは認知度が低いということがニーズ調査の結果にでている。これはお金をかけなくても、各保育園等に配置できるのではないかと。

子ども課長 貴重な意見をありがとうございます。

委員 小中学校の再編の話、実施の目途は明らかになっているのか。

学校教育課長
計画をこれから作っていくので、その中で時期も示していくということになる。

会長 では、(1)「第3期沼田市子ども・子育て支援事業計画の策定について」は、事務局の説明どおり確認いただくことでよろしいか。

～異議なし～

4 その他

会長 そのほかに、何かご意見やご質問があるか。

会長 民生委員の関係で県の会議にも出席しているが、最近は中学生でも闇バイトに関係している者もいる。十分に家庭でも気を付けなければいけない。

委員 学校は、携帯の所持率は把握しているのか。

委員 携帯の所持率は調査をしていないが、ゲームをしていますかというような調査をしている。SNSの使い方等については、授業参観の時に県警にお願いして話してもらっている。

5 閉 会